

日常異変 コロナの私 (9)

正しく恐れなかったコロナのわたし



3月上旬セブ島でゴルフ

あれはいつ頃だっただろう。新型コロナウイルスで大騒ぎし始めたのは。今年の正月には誰も騒いでなかった。2月半ばころから日本では少し神経質になってきたが、さほどの危機感は感じられなかった。私は3月上旬、呑気にセブ島でゴルフを楽しむために旅行に出た。出発するときは、飛行機の座席もガラガラで極めて快適であった。

ところが現地に着いた翌日から、あらゆる人の集まる場所への入場に規制が施行され、私の知る限りゴルフ以外の活動は一切無くなっていた。国際線の往来も規制され私の帰国日の翌日から出国制限が始まるという事で、飛行機は脱出者で超満員の有様で新型コロナウイルスに対する恐怖から事態が急変していることを如実に感じた次第である。

帰国後オフィスに行っても妙に私を避けようとする雰囲気があり、正しく恐れるという福島原発の時盛んに言われたことをどう理解しているのかとい

う気もしたが、今思えば私を避けようとした雰囲気は正しかったのかもしれない。

コロナの最中、完全リタイアへと突入

4月に入りいわゆるリモートワークが実施され、オフィスに出ない日が続き、次第に曜日の感覚が薄れ毎日が週末という感じになり、株式市場がなぜ開いているのだろうという不思議な感じを持つようになった。地域のごみ収集日が手取り早い曜日認識の手がかりになってきたのは、長らく家のことを家族に頼りきりにしていたツケで有ったと感じている。

以前から決めていた事ではあるが5月末日を以って、私は全ての仕事を辞めることにしていたので6月1日からはリモートワークどころか一切の義務から解放されたのである。送別会も感謝の会もない最後だったが、ふわーとした決別で良かったと思う。みんなが集まり、心にもない惜別の言葉をかけられ、涙され、妙にしんみりするよりよっぽど良い。

コロナ後の世の中どう変貌するのか

コロナ後の世界がどうなるかは想像もつかない。果たしてはっきりしたコロナ後というのが来るのかさえ分からない。でも我々は必ずコロナを克服する手立てを見つけると思う。その時我々がどう行動するかは何となく想像できる。コロナ禍の時経験した働き方、生き方から学んだことを生かし、コロナ以前にそのまま戻ることはないであろう。より原点に返った生き方で十分であると感じるようになるだろう。これにより社会生活のあり方も経済活動も大きく変わることになると思われる。

コロナ騒ぎが終わったら是非お会いしたいとか、飲みたいとか、一席もうけましょうという話がいっぱいあるけど、これが又いつかお会いしましょうという以上に気楽な挨拶になっているのが妙に気掛かりである。その日がいつになるかは誰も決められない。正しく恐れながら自分達が決める事であると思うからである。

中村嘉秀